

麻疹(はしか)ワクチンの予防接種をご希望の方に

1. 麻疹について

麻疹は、麻疹ウイルスによっておこる感染症で、主に春から夏にかけて空気感染・飛沫感染・接触感染でヒトからヒトへと感染します。感染力がとても強い(インフルエンザより強い)ので、麻疹に対する免疫(抗体)を持たない人または免疫力(抗体価)の低い人に広く感染してしまいます。

2. 麻疹の症状は

主な症状は、発熱・咳・鼻汁・目やに・発疹などです。約10～12日の潜伏期間(ウイルスに感染後、無症状の期間)のあとに症状が出始め、38℃前後の発熱があり、麻疹特有の白く小さな斑点(コプリック斑)も頬の内側の口腔粘膜にあらわれます。数日後に一時熱が下がりますが、24時間以内に再び高熱(39～40℃)となり、鮮紅色の発疹が全身に広がっていきます。主な症状は7～10日で快復していきませんが、発疹のあとは、茶褐色の色素沈着となりしばらく残ります。

麻疹に対する免疫力が低下した人が感染し、上記症状の一部しかみられない修飾麻疹(病原体が検出されたもの)と分類される人もいます。修飾麻疹は麻疹より症状は軽症ですが、感染力は麻疹と同様なので感染を広げてしまうおそれがあり、注意が必要です。

3. 麻疹の合併症は

麻疹にかかるとおよそ30%に合併症がみられ、主な合併症は、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などです。脳炎は約1000人に1人の割合でみられ、麻痺・けいれんなどの中枢神経系の後遺症を残すこともあります。さらに麻疹にかかったあと数年～10数年後に発症する亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という死に至る合併症が、麻疹にかかった人のうち約10万人に1人の割合で報告されています。

麻疹にかかった人のうち、1000人に1人程度の割合で死亡することがあります。

4. ワクチンの効果と副反応

ワクチンにより約95%の人に免疫が獲得されます。ただし、1回の予防接種では免疫力が上がらない人や麻疹に対する抗体価が次第に低くなっている人もいるため、現在では2回の定期接種が勧められています。麻疹には特別な治療法はなく、対症療法だけなのでワクチンによる予防が重要です。

麻疹ワクチンは生ワクチンなので、ウイルスが体内でふえ、約20%の人に発熱や発疹などの副反応がみられます。接種後5～10日頃に38℃前後の発熱がみられ3日ほどで下がります。発疹も同じ頃に出現します。まれに重い副反応としてショック・アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病(100万人接種あたり1人程度)、急性散在性脳脊髄炎(ADEM、頻度不明)、脳炎・脳症(100万人接種あたり1人以下)、けいれんなどを起こすことがあります。ワクチン接種後に起こる亜急性硬化性全脳炎(SSPE)は極めてまれで、自然の麻疹ウイルスに感染し発症した場合の1/10以下程度と報告されています。

ワクチンの成分により、接種直後(30分以内)から接種部位に発赤・腫脹(はれ)、疼痛(痛み)などの局所反応、また接種後1日以内に発疹などの全身反応があらわれることもあります。

5. 次の方は接種できません

- ① 明らかに発熱(通常37.5℃以上)している方
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ 本剤の成分によりアナフィラキシー(重いアレルギー反応)を起こしたことがある方
- ④ 免疫機能に異常のある方・免疫抑制をおこなう治療を受けている方
- ⑤ 妊娠している方および妊娠している可能性のある方
- ⑥ その他、医師に予防接種を行うことが不適當であると判断された方

6. 麻疹ワクチンを受けるには

4週間以内に他の予防接種を受けた場合には医師にご相談ください。

麻疹ワクチンは任意接種ですので、ワクチンの効果や副反応をお考えになったうえ、ワクチンの接種を受けるかどうかをお決めください。

ワクチンの接種を受けられるとお決めになった場合には、「麻疹ワクチン接種申込書・予診票」に正確に記入し、医師の問診、診察をお受けください。もし、ご不明な点がございましたら、医師にご相談ください。

7. 予防接種後の注意事項

接種当日は接種部位を清潔に保ち、過激な運動を避け静かに過ごしてください。接種後2週間は健康状態や副反応に留意し、何か気になる症状がある場合は、医師に連絡してください。

本剤の接種により健康被害が発生した場合には「医薬品副作用被害救済制度」により治療費等が受けられる場合があります。詳しくは独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページ等をご覧ください。

【女性の方への注意事項】 接種前1ヵ月間、接種後2ヵ月間は、妊娠を避けることが必要です。

接種予定日	月 日()です	医療機関名	文京ガーデン女性クリニック
	時 分頃までにおこしてください。		